

令和5年度 北部地区子ども支援net 事後アンケートまとめ

令和5年6月16日（金）

龍郷町りゅうがく館 講堂

参加者： 54 名（見学者4名含む）

回答者数： 38 / 43 名（講師1、見学者4、事務局6は除く）

回答率： 88%

1.本日の子ども支援netについて、ご意見、ご感想等をお聞かせください。

①.ミニ研修について「発達支援における保護者との連携について」

【研修全体を通じた感想】

- ・とてもわかりやすく、良い研修だった。（16）
- ⇒専門的な話だけではなく、具体例を交えて分かりやすく、日々の支援に生かせる内容だった。「家族への声かけや話し方や聞き方」「提案の方法」「話が止まらない保護者への対応」「大丈夫ですと答える保護者への対応」「困り感が薄い保護者への対応」など
- ・分かりやすい口調で、納得することができた。
- ・心に残った言葉が多くあり、学びになった。
- ⇒「感情との付き合い」「子ども支援は保護者支援である」等
- ・保護者との連携には、改めて、信頼関係構築が大切だと痛感する内容だった。
- ・自身の関わり方を振り返り、「なるほど」と思うこともたくさんあった。
- ・保護者への関わり方について、少し気持ちが楽になるような話だった。
- ・多職種との連携していくことの大切についても、感じる事ができた。
- ・子ども支援=保護者支援なので、日々悶々としている。

【学びについて】

- ・違った視点からの声かけの大切さを学ぶことができた。
- ・実践していきたいと思える内容がたくさんあり、勉強になった。
- ・相談支援における配慮や視点を学ぶことができ、とても良かった。
- ・自身の面談や関わり方に対する意識について、振り返る機会にもなった。（3）
- ・保護者との連携について、改めて、その重要性を認識することができた。（2）
- ・保護者との連携は、永遠のテーマだと感じた。
- ・子どもの支援だけに意識が向きがちだが、保護者にも目を向けて、関わっていくことが大切だと感じた。
- ・保護者と「一緒に考えていく」という視点が大切だと感じる事ができた。
- ・保護者の相談に対して、「その場で解決しようとせず、一緒に考える」「元気を出させようではなく、保護者に寄り添う」でも良いのだと感じた。
- ・「保護者との連携」について、悩んでいたが、関り方など内容がわかりやすく、勉強になった。（2）

【これからについて】

- ・今日学んだことを、子どもや保護者に接する際に、意識していきたい。（5）⇒「自分のものさしで測らない」
- ・保護者に寄り添う事を忘れないように、気持ちを引き締めていきたい。
- ・保護者への働きかけについて、思いやその様子を見ながら、伝えていきたい。
- ・保護者との連携は、声に耳を傾けるところからスタートしていきたい。（寄り添い、一緒に考えていく姿勢を大切に）
- ・困り感の薄い保護者にも、タイミングを図りながら、働きかけていきたい。
- ・今まで、意識していなかった関わり方について、反省した。改めて意識し、今後の対応に生かしていきたい。
- ・保護者という「ものさし」で測っていることに気づいた。一歩引いて、その家族の「ものさし」で見していきたい。
- ・関わり方からくる問題は、自分自身のものさしで図ってしまっているがゆえに起こっていると行くことが理解できた。（見方を変えることが大切）
- ・家庭の状況や保護者の様子がわかるまで、その子どもや家族にとって、「出来ること」「今がんばっていること」を大事にして、丁寧に寄り添って行くことを心がけていきたい。

②.グループワークについて

「奄美北部地区で困り感のある子どもや、その家族を支える人たちの連携について」

【保護者との連携/支援について】

- ・保護者への働きかけについて、保護者の様子を見ながら、伝えていけたらと改めて思った。
- ・保護者との連携について、改めて、その重要性を認識することができ、とても良い意見交換になった。

【多職種連携について】

- ・地域の子どもの支援の充実を図るため、各機関同士が繋がることの重要性を感じることができた。(2)
- ・顔の見える関係づくり、対話が大事。(2)
- ・福祉と教育の連携が、難しいと感じている。もっとネットワークの認知度をあげていく必要がある。
- ・積極的に情報交換が出来る環境を作っていきたい。
- ・様々な職業の専門的な話だけでなく、お互いの情報や困り感を共有することで、連携につながる関係を築けたのがよかった。
- ・顔の見えるネットワークで、子ども達をみんなで、支えていきたいと思えた。

【GW全体について】

- ・とてもよい情報交換の機会だった。(3)
 - ・話しやすい雰囲気だったので、活発に、たくさんの意見が出てよかった。(2)
- ⇒「保育所から小学校への移行でうまくいった事例」「北部地区の資源不足の問題（医的ケア児へ対応できる事業所がない）」など
- ・いろいろな方と顔を見て話すことが出来て良かった。(2)
 - ・学校や行政の現状など知ることができてよかった(2)
 - ・もっと他の機関の方の話も聞きたかった。
 - ・学校の先生の困り感や、課題を、共有する事ができて良かった。
 - ・普段、関わっている子どもたちは、こんなにも、たくさんの人や職種の方に支えられているのだという事を初めて知ることができた。
 - ・各機関それぞれが子どもや保護者への関わり方や環境などに困っていることがあり、その上で子どもや保護者の事を思っているという事が分かった。
 - ・話を聞く中で、お互いの質問と答えがつながることもあり、おもしろかった。
 - ・多職種の方の意見を聞くことができよかった。今後もいろんな意見を取り入れていきたい。

【その他（GW全体を通して感じたこと）】

- ・連携がうまくいった話や、それぞれの立場における課題などを共有することができ、有意義なグループワークだった。
 - ・それぞれの立場の方から、困り感や、これから取り組んでいきたいことなどを聞くことができた。
- ⇒今後、連携をとっていく上でのについて、ヒントになった。
- ・他機関の支援に対する価値観を聞くことができ、有意義な機会だった。(2)
 - ・診断のついていないグレーゾーンの子や、保護者が受け入れられず支援を受けていない子への関わり方など、他の職種の方と話をすることで、様々な機関が連携して「一緒に支えていくこと」や、保護者も、支援者も「孤独を感じさせないこと」など、学ぶ機会になった。
 - ・支援施設間の課題や現場での要望等を共有することができた。支援につなげられる環境づくりが必要。
 - ・いろいろな職種の方々との意見交換を行うことで、様々な情報を知ることができてよかった。(4)
 - ・直接、お互いの顔を見て、困っていることや、参考になることを話し合うことができてよかった。
 - ・それぞれの立場や職種での悩みや思いを聞くことができ、お互いの支援機関を身近に感じる事ができた。
 - ・いろんな職種の方と意見交換ができる、よい機会だと思う。(各機関の悩みなども共有することができてよかった。)
 - ・意見交換することで、他職種の方がどう感じているのかが、理解できて、とてもよかった。
 - ・意見交換が活発にできて良かった。今後活かしていきたい。
 - ・いろんな方たちと話すことで、疑問に思っていたことを解消することができた。
 - ・子どもの困っているところの前に、キラキラした、本人が好きなところを見ていきたい。
 - ・各関係機関の方と会える点はすごく良いと思う。

③.運営等（案内、開催日時、進行 他）について

- ・今回初めての参加だったが、他業種の支援者との顔合わせなどできたので、よかった。
- ・あらかじめグループが決められていて、よかった。
- ・意見交換の時間がもっと欲しかった。
- ・日程、時間設定共によかった。
- ・いい時期だった。（2）
- ・早めに周知があり、とてもありがたい。
- ・とても良かった。（5）
- ・終了時間が先にわかっていると助かる。
- ・子どもたちの利用していない時間帯（学童）にしていきたい。
- ・あと30分くらい後から始めると、給食指導のあとに出てきやすい。
- ・各機関に案内が届いているのに、現場の職員に周知されていないのではないかと感じた。
- ・特になし。

2.「困り感のある子どもへの支援」に関する課題や知りたい情報について

①.あなたが感じている、地域の課題等がありますか。

- ・支援学級に通っている児童等への周囲の理解。
- ・支援に繋がって、そこで終わりではなく、保護者も含め継続して支援して行ける環境がまだ整っていない。
- ・家庭への支援と地域の理解（2）
- ・障害受容への働きかけ
- ・グレーゾーンの児童生徒への対応
- ・学校との連携（5）

⇒現場との温度差を感じる。（「保育所等訪問」「特性の理解」「受け入れてもらった後の支援」など）

- ・行政内での情報、つなぎ（保健師、学校関係など）
- ・地域の機関、行政との連携がうまくいっていない（このような機会をつくってもらえるとありがたい。）
- ・地域の療育への理解がまだ浅いように感じている。
- ・子どもを中心にした情報交換、情報共有。（2）
- ・発達検査（WISC-IV）を受けるためのハードル
- ・資源不足（5）

⇒支援施設がない。スタッフが足りない。定員がいっぱい受け入れできない。医学的ケア児への対応できる施設がない

②.今後開催してほしい、研修や知りたい情報などがありますか。

- ・素晴らしい会だったので、毎年継続して開催してほしい。
- ・子どもの進学先を振り分ける基準について（支援学級、通級、支援学校など）
- ・地域連携に関する機会
- ・愛着障害の子どもや保護者への関りについて
- ・他の事業所の保育所等訪問支援事業の実態、介入方法などを知りたい。
- ・行政や療育などの役割について
- ・支援システム図について、図内にある機関が理解できる機会があると良い。（お互いの事業理解も必要だと思う。）

3.その他（ご意見、ご感想など自由にお書きください。）

- ・「多職種連携」とても有意義な会だった。（年に2回ほど出来たらよいと思う）
- ・年1回がもったいないと思った。
- ・顔を見て、話が出来、とても良い機会になった。
- ・また参加したい。（3）
- ・毎回「顔の見える関係は大切」という事に気づかされる。
- ・「顔の見えるネットワークづくり」ということで、昨年度、同じ学びをした方との再会があり、うれしかった。
- ・「きらきらリレーファイル」を活用していきたい。
- ・いろいろな職種の方の話を聞くことができ、とても参考になった。
- ・貴重な機会を提供していただき感謝している。

【あなたのことをお聞かせください】

職種

- | | | | |
|--|-----|--------------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> 教育機関（小、中、高、他） | 6名 | <input type="checkbox"/> 幼稚園、保育園 | 3名 |
| <input type="checkbox"/> 療育機関（児発、放デイ等） | 11名 | <input type="checkbox"/> 学童 | 3名 |
| <input type="checkbox"/> 相談支援等 | 2名 | <input type="checkbox"/> 行政機関（市町村、県） | 8名 |
| <input type="checkbox"/> 医療機関 | 2名 | <input type="checkbox"/> 未回答 | 3名 |

職名

保育士（6）、児発管（5）、児童指導員（3）、相談支援専門員（2）、教諭（5）、養護教諭（1）、保育所所長（1）、主任支援員（1）、看護師（1）、作業療法士（1）行政職員：市町村（5）、保健師（3）、未回答（6）

経験年数

- | | | | | | |
|--------------------------------|-----|-------------------------------|----|-------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> 1～3年 | 10名 | <input type="checkbox"/> 4～6年 | 8名 | <input type="checkbox"/> 7～9年 | 6名 |
| <input type="checkbox"/> 10年以上 | 10名 | <input type="checkbox"/> 未回答 | 4名 | | |